

航空分野の人材確保・省力化を重視

■国土交通白書 2025

24日公表された2025年版国土交通白書は、航空機の運航に不可欠なグランドハンドリングや保安検査などの空港業務において、人材の定着・育成が課題になっていることを指摘した。施策として航空会社の系列ごとにならっていた資格の相互承認、空港見学会を通じたグランドハンドリングスタッフや保安検査員の裾野拡大のための施策などが進められている点を説明。併せてグランドハンドリング分野の省力化・自動化の取り組みに関して、25年中に空港制限区域内での自動運転レベル4の実装に向けた施策を進めることを記している。

グランドハンドリングや保安検査員の人材定着・確保に関する個社の取り組みとして、休憩スペースの整備や福利厚生充実といったハード・ソフト両面からの労働環境の改善施策が実施されていることも取り上げた。白書は「今後の航空需要の増加に対応するために、空港機能が持続的に維持・発展できるよう、体制強化が推進されている」とした。

航空整備士・操縦士の人材確保の重要性も指摘。航空整備士の主要養成機関である航空専門学校の入学者は大幅に減少しており、航空整備士の担い手不足が懸念されると説明。航空機の操縦士も、高齢化に伴う大量退職など人材確保に課題があるという。

国交省は有識者検討会で航空整備士・操縦士の確保や業務効率化などに向けた必要な対策について、25年

3月に最終とりまとめを策定し、具体的な取り組みの方向性を示した。航空整備士については、自衛隊整備士の活用促進や外国人整備士の受け入れ拡大などを、操縦士に関しては、養成機関としての私立大学などの活用促進や女性パイロットなどの拡大といった取り組みが期待されているとしている。官民が連携した協議体を設置し、戦略的な広報活動にも取り組む。

空港業務での担い手不足の課題、観光需要の増加に関する対策として、先進技術などによる空港業務の生産性向上が求められる点も指摘した。グランドハンドリングは航空機の機体、旅客・貨物・燃料などの搭載物の取り扱いなどにかかわる航空機の運航に不可欠な業務と位置付けられている。そのため国交省は各業務の先進技術の開発・実装に向けた取り組みを推

進している。

混雑空港では、ランプバスやトローリングトラクターは短時間に多くの旅客の輸送や貨物・手荷物の搬送を行うために多くの人手が必要であることを背景に、自動運転の導入による搬送作業の無人化も進められている。国土交通省は産学官の連携で、空港制限区域内の「自動運転レベル4」の実現に取り組んでいる。自動運転車両の導入にあたっては、センサやカメラなどの共通インフラの整備や運用ルールについてのガイドラインを公表。さらに自動運転の導入に向けた実証実験を進めている。白書は「今後は、2025年中の空港制限区域内における自動レベル4の実装に向けて、共通インフラの整備などの取り組みを進めることになる」と明記した。